



丁寧生きる

寺の法事に懐かしい恩師がお参りに来てくださいました。久しぶりの再開に、時を超えて、懐かしい昔の思い出がよみがえってきました。

その方は私が照明保育園に通っていた子どものとき、お世話になった先生でもあるし、保育士として働き始めたころの指導して下さった上司でもあります。昔からの変わらない明るさで、今も元気にされている姿に嬉しくなりました。懐かしい再会の嬉しさと同時に、時の流れの早さを感じました。

私が保育士になりたてだった、あ

の頃から二十年の月日が経ったことになりました。子どもの頃までさかのぼると四十年程の月日が流れたという事実、互いに驚いたことでした。

「年を重ねたら、その分だけ時の流れを早く感じるもの」と皆さん、おっしゃいます。子どもの頃を振り返ってみると、朝起きてから夜寝るまでの一日が、今よりもずいぶん長かったような気がします。

子育てに振りまわされつつ、次々にやってくる仕事や家事に追われる毎日。気がつけば、あつという間に過ぎていく日々が、いま以上に早くなってしまうなんて、。

ある方が「子ども達の成長はあつという間の夢のような時間よ。今しかないんだから。」とおっしゃいました。確かに、子ども達との関わりもつ時間を大切にしないと、。と感じながらも、なかなか、「今」を大切

にできていない自分の不器用さに、時より、ため息がこぼれます。

時間に追われる日常のなかで、わがままで、マイペースな動きをする子どもたちに、ついつい「もつと、早くして!」「すぐに、片付けなさい!」「もう、やめなさい!」と、声を荒げて、イライラしてしまっている私がいるのです。

でも、慌ただしい一日が終わりを迎え、スヤスヤと眠る子の純真無垢な寝顔を見ると、「かわいいな」と昼間の怒りを忘れて、愛おしさを感じます。あと何年、親として、子どもと関わる事が出来るのでしょうか。

久しぶりのお方に出会い、互いが重ねた時の流れに驚く今、改めて思うことは、子どもたち一人一人と、しっかりと向き合うひとときを大切にしつつ、出来るだけ「今を丁寧に生きる」そんな私でありたい、という事です。